

お知らせ



## 多摩川サイクリングコース愛称候補への市民投票（WEB投票）を実施します。

多摩川サイクリングコースについて、歩行者や自転車など様々な利用者が安心安全に利用でき、親しみやすく多摩川を連想させる愛称を設定するため、令和元年10月に愛称を募集したところ、401点の応募をいただき、その中から、外部有識者や市民委員で構成された多摩川プラン推進会議にて4点の候補の選出を行いました。これらの選出した作品を対象に市民投票（WEB投票）を行い、最優秀作品を多摩川サイクリングコースの愛称とします。投票した方の中から抽選で50名様に多摩川オリジナルクリアファイルを差し上げます。

- 期 間：令和2年1月10日（金）～1月31日（金）
- 愛称候補：
  - ・かわさき多摩川いこいの道
  - ・かわさき多摩川ゆずり愛のみち
  - ・かわさき多摩川ふれあいロード
  - ・かわさき多摩川やすらぎロード
- 方法：市ホームページ上のWEBフォームから投票。 多摩川 愛称 検索
- 愛称の決定：市民投票（WEB投票）の投票数により最優秀作品を決定し、愛称とします。  
ただし、商標登録されていた場合は、次点のものを愛称とします。

問い合わせ：建設緑政局緑政部多摩川施策推進課 TEL 200-2265 FAX 200-3973

お知らせ



## 平成30年度川崎市における化学物質の環境リスク評価結果

市では、市内の事業所から大気への排出があり、有害性に関する情報がある化学物質について、大気環境実態調査を実施し、その結果をもとに環境リスク評価※を行っています。平成30年度の評価結果は次のとおりです。この評価結果については、今後の化学物質対策の取組に活用していきます。

※大気に排出された化学物質が人の健康に悪影響を及ぼす可能性（環境リスク）について評価しています。

物質名	大気環境実態調査結果 (μg/m <sup>3</sup> )	評価結果	主な用途等
N,N-ジメチルアセトアミド	0.0017~0.14	○	反応溶剤、溶剤、塗料はく離剤など

調査は年4回、市内4地点で実施しており、表中の数字は最小値～最大値を示しています。

評価結果の見方：○…現時点で対策の必要性はないと考えられる物質

△…対策の必要性の有無について調査すべき物質

×…対策について検討すべき物質

環境リスク評価の方法や詳細については、下記HPをご覧ください。

<http://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-3-1-10-0-0-0-0.html>



問い合わせ：環境局環境管理課 TEL 200-2532 FAX 200-3922

お知らせ



## 平成30年度地盤沈下調査結果

公害としての地盤沈下は、地下水の過剰揚水により、地下水位が低下し、地層が収縮することによって生じる現象です。一般に、一旦沈下が起こると元に戻すことは不可能であるため、定期的な調査・監視による早期発見と未然防止が重要となります。

平成30年度の調査結果は次のとおりで、この結果は地盤沈下の未然防止に向けた取組に活用していきます。

●精密水準測量

平成30年度は、市内383箇所の水準点において標高を測定しました。前年度と比較して305箇所の水準点で沈下が見られ、最大沈下は川崎区水江町の水準点で2.22cmでした。

●地下水位

市内に11箇所の観測用井戸を設け、地下水位等の常時監視を行っています。地下水位の変動を経年的にみると、昭和52年頃からおおよそ水位は安定しています。各観測用井戸における平成30年平均地下水位の前年との差は-1.83m~0.11mでした。

●地下水揚水量

市条例に基づいて、揚水施設の設置事業者から揚水量の報告を受けています。平成30年の総揚水量は約40,106m<sup>3</sup>/日、前年(37,431m<sup>3</sup>/日)より約7%増加しました。

水準測量結果の経年推移

項目	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
調査水準点数	413	390	389	397	383
有効水準点数*	282	282	321	322	316
沈下水準点数計	172	23	182	248	305
2cm未満	172	23	182	248	304
2cm以上 4cm未満	0	0	0	0	1
4cm以上	0	0	0	0	0
年間最大沈下量	1.05cm	0.64cm	1.00cm	0.76cm	2.22cm

※有効水準点：前年度と対比可能な水準点

問い合わせ：環境局水質環境課 TEL 200-2522 FAX 200-3922